

情報クリップ

農業情報ピックアップ

10/27 全国のコメ作況「90」に

農水省が発表する2003年産水稲の都道府県別作況指数が、全国で「90」となったことが明らかになった。1993年の「75」（同年10月時点）以来、10年ぶりの不作となることが確実となった。

低温や日照不足など、冷夏の影響でイネの生育が遅れた上、実が入らない「不稔」の状態も多発し、全体の収穫量が落ち込んだ。特に北海道や青森、岩手、宮城の東北地方の太平洋側などで作況の悪化が目立った。

（共同）

コメ不作・冷害

10/23 冷害被害額3、148億円
農家に210億円低利融資

政府は冷夏で被害を受けた農家に対し、低利で経営資金を融資するため、天災融資法の発動を決めた。同時に北海道と東北6県については激甚災害法を適用、融資額を引き上げる。融資枠は総額210億円。内閣府のまとめによると、5月中旬から9月中旬の低温や日照不足に伴うコメの不作などの被害見込み額は、合計3、148億円に上る。 （共同）

10/26 新米市場で「自由米」増える 高値見込み農家出荷

新米市場で、農協系統を経ないコメ（計画外流通米、自由米）の出荷が伸びている。コメ不作で、高値が見込める自由米を優先する農家が増えているためとみられる。9月までに農水省などの検査を受けた自由米は20万tで、前年同期に比べ約24%増えている。一方、農協系統を通ず計画流通米（自主流通米と政府米）では、9月末までに検査を受けた新米は約70万tで、前年同期よりほぼ半分にとどまる。農家は相場を見るため農協への出荷を控えつつ、高値を提示

する集荷業者向けには自由米として積極的に売っているとみられる。 （朝日）

10/28 農作物被害3、800億円

農水省は冷夏などによる農作物の被害見込み金額（10月15日現在）が、3、807億円に上ると発表したが、5月中旬以降の低温や日照不足、長雨で水稲の作況が悪化したほか、豆類や果実にも肥大不良などの影響が出た。金額は1993年の1兆350億円に次ぐ水準。

水稲と陸稲が全体の78%を占め、2、984億円と最も多かった。地域別では、東北が1、652億円と最も多く全体の43%。北海道は607億円、関東が553億円、九州が302億円、北陸が246億円などとなった。 （共同）

10/31 コメ価格、前週比12銘柄値上がり 10銘柄値下がり

農林水産省がまとめた10月第4週（20日～24日）のコメの卸・小売価格調査によると、2003年産米の小売価格は前週と比べ、30銘柄のうち12銘柄が値上がりした一方、10銘柄が値下がりした。前年より値下がりした銘柄も2つあった。卸売価格は、30銘柄のうち6銘柄が値上がりし、7銘柄が値下がりした。 （読売）

農産物窃盗

10/10 コメ泥棒、15aを稲刈り滋賀・近江八幡の水田で

滋賀県近江八幡市の米穀商、篠原さんから「稲が無断で刈り取られている」と近江八幡署に届け出があった。同署は新手的な窃盗事件として捜査を始めた。

調べでは、篠原さんは同市牧町で借りて耕作している水田、約20aのうち約15aに植えていた「ヒノヒカリ」が刈られているのに気付いた。盗まれたコメは約840kg（22万円相当）になるという。 （共同）

10/11 ナシ盗んだ男を逮捕 畑のセンサーが威力発掘

神奈川県警藤沢北署は畑でナシを盗んだとして、窃盗の疑いで藤沢市の48才の解体工を逮捕した。

8月初めにブドウ約100房（8万円相当）を盗まれた農家が約30万円かけて設置した防犯センサーが逮捕につながった。

調べでは、容疑者は藤沢市の畑でナシ8個（1、600円相当）を盗んだ疑い。センサーの通報音に気付いた家族が、容疑者と一緒に来ていた男の軽乗用車をデジタルカメラで撮影、同署が容疑者を割り出した。 （共同）

10/27 リンゴ200箱分盗まれ

青森県弘前市のリンゴ畑から、リンゴ約200箱分（卸値約80万円相当）が盗まれたと畑を所有する農家の男性が弘前署に届けた。弘前署は窃盗事件として捜査、盗まれたリンゴは約12、000個

18、000個に上るとみられる。盗まれたのは300本あるリンゴの木のうち、主力品種のサンふじの200本からで、収穫直前だった。比較的安価なジョナゴールドの木には手をつけていないという。 （共同）

BSE・狂牛病

10/10 母牛と生産農家を特定 DNA鑑定などで判明

国内8頭目のBSE感染牛が見つかつた問題で、栃木県はDNA鑑定や関係農家の聞き取り調査などから、感染牛が生まれた酪農家と母牛を特定した。

栃木県BSE防疫対策本部によると、生まれたのは塩谷町の酪農家。母牛は現在もこの酪農家で飼われているが、臨床検査では異常がないという。 （共同）

10/22 仏でも「新型BSE」

農水省、国際協力で説明へ 「新型」と判定されたBSEの国内8頭目と同様に、新しいタイプの変異プリオン（タンパク質）を持つ感染牛がフランスで2頭見つかつていたことが、農水省のBSE技術検討会で報告された。

イタリアでも既に2頭が確認されており、相次ぐ「新型」の発見に農水省は、関係各国や国際獣疫事務局と連携して説明を進めることを決めた。 （共同）

10/22 BSE 国内8頭目、原因は「頭の可能性高い」検討委

茨城県で見つかった国内8頭目のBSE感染牛について、農水省のBSEに関する技術検討会は、「餌が原因である可能性が高い」と

の結論をまとめた。

8 頭目は従来のタイプと異なる「新型BSE」とされ、遺伝性の可能性も指摘されていた。しかし病原体である異常プリオンの遺伝子配列を調べた結果、遺伝性の可能性は否定されたという。(毎日)

11/4 BSE、9 頭目の疑い
21ヶ月、初の西日本生まれ
広島県で飼育されていた雄のホルスタインがBSEの全頭検査で疑陽性となり、2次検査でも感染の疑いが強いことが分かった。厚生労働省は専門家会議を開いて確定診断する。確認されれば国内9頭目で、世界的にも最も若い感染牛となる。生産地は兵庫県で、西日本生まれは初めて。

2002年1月に誕生した生後21ヶ月の雄で、10月に「非定型的な感染牛」と診断された23ヶ月の茨城県の牛と同様、従来の感染牛に比べて若い。同省は8頭目との類似性も含めて慎重に判断する。(共同)

テクノロジ

10/10 納豆菌の仲間に光合成遺伝子
植物の生産性向上に期待
奈良先端科学技術大学院大学の横田教授(植物分子生理学)の研究グループは、納豆菌の仲間である枯草菌のゲノム(全遺伝情報)の中から、光合成に欠かせない酵素「ルビスコ」の祖先とみられる遺伝子を発見した。

同教授は「光合成研究の重要な手掛かりで、将来的には植物の生産性向上につながるかもしれない」と話している。(時事)

10/22 「青いバラ」生育へ、遺伝子特許申請 青森県
「青いバラ」の開発を目指す青森県は「チョウマメ」(マメ科)が青い花を咲かせるのに重要な働きをしている遺伝子突きとめ、特許庁に特許申請したと発表した。

特許申請したのは「新規グルコシル基転移酵素遺伝子」。同センターの所長ら5人の研究員が、チョウマメの花のうち青とピンク2色の色素分析を行い、昨年秋ごろ、同遺伝子が青色の発色に不可欠であることを発見した。(読売)

10/31 クローン家畜 肉は安全
来年も販売承認
体細胞クローン家畜の安全性を審査してきた米食品医薬品局(FDA)は「体細胞クローン技術でつくった家畜の肉やミルクなどは、通常の食品と同様、安全性に問題はない」とする報告書をまとめた。

FDAは、これまで安全性の評価が不十分だとして、クローン家畜やその子孫の肉などの商品化を自粛するよう企業側に要請してきたが、今回の結論でクローン牛肉や乳製品などの販売承認に向け、大きく踏み出す。(毎日)

トピックス

10/10 コシヒカリ30%に他種混入
新潟県産、DNAで判明
コメどころ新潟で「新潟県産コシヒカリ100%」との表示で売られていたコメの約30%に、コシヒカリ以外のコメが混入していたことが、新潟県の検査機関の調査で分かった。

コシヒカリの昨年度産水稲の品種別収穫量は全体の約36%とトップ

を占める。同研究所が9月、県内のコメ小売店23店から昨年度産のコシヒカリを購入、DNA解析した結果、約30%にほかの銘柄のコメが混ざっていた。(共同)

10/24 農政基本計画見直しを前倒し 年内にも審議会
亀井農水相は記者会見で、農政の中長期的な指針となる「食料・農業・農村基本計画」の見直し作業に前倒しで取り組む考えを明らかにした。

従来は見直しの内容を議論する農水相の諮問機関「食料・農業・農村政策審議会」の会合を来年3月に開催する予定だったが、亀井農水相は「年内にも開けるようにしたい」と述べた。(時事)

10/24 種もみに別品種混入 富山産ミルキークイーン
富山県砺波市のとなみ野農協はコメの新品種「ミルキークイーン」として昨年9月に富山、石川、茨城の3県に出荷された種もみ3、160kgの中に、コシヒカリの種もみが混じっていたと発表した。

このうち茨城県向けは2、320kg。種もみから生産されたコメが「ミルキークイーン」として流通している可能性があり、同農協は3県の農協や生産農家に該当のコメを出荷しないよう求めている。

同農協によると、種もみを生産した富山県庄川町の農家が、収穫時にコシヒカリを誤って混ぜたのが原因。(共同)

10/31 リンゴ 01年の品種別生産量で「ふじ」が世界一に
日本で生まれたリンゴの品種「ふじ」が、2001年の品種別生産量で世界一になったと、農業・生物系特定産業技術研究機構の果樹研究所が発表した。

研究所によると、リンゴ生産の主要32ヶ国の2001年総生産量は約6,000万tのうち、ふじは1,230万tで2割を占め、デリシヤス(930万t)やゴールデンデリシヤス(880万t)を上回った。これまで米国原産のデリシヤス系が世界一とみられていたという。(毎日)

11/1 04年「国際コメ年」と宣言 日本でも研究会開催へ
国連食糧農業機関(FAO)のデイウフ事務局長はニューヨークで記者会見し、2004年を「国際コメ年」と宣言、飢餓対策のためにコメの生産を拡大する必要性を訴えていく考えを明らかにした。

期間中、世界各地でコメ生産拡大をテーマとした会議のほかコンサートなども行い、広くコメへの関心を高めていくという。日本でも同年11月に「国際コメ研究会」を開催する。(共同)

12月のイベント

(国内)

●第13回「ボトムプラウ有機物循環農法体験記」受賞式
12月11・12日
会場 美浦村公民館(茨城県)

内容 今年で13回目になる「ボトムプラウ有機物循環農法体験記」の受章式、有機物循環農法研究会総会の他、矢久保英吾氏と村井信仁氏による記念講演を予定

問い合わせ先 有機物循環農法研究会事務局

TEL 03-366-2697

●エコプロダクツ2003

12月11・13日

会場 東京ビッグサイト
内容 エコロジーの普及とエコビジネスの振興を目的に開催するわが国最大級の環境総合展示会。「安心な食糧を考えるコンベンション2003」を併催。

問い合わせ先 エコプロダクツ2003運営事務局
TEL 03-5255-2847

公式サイト <http://eco-pro.com/>

(海外)

●Belprodukt

12月2〜5日

会場 BelInterExpo (ハラルシ・ミンスク)
内容 食品および設備の展示会。パッケージ用機械・技術の「Salon PACKAGING AND LABEL-2003」を同時開催。

問い合わせ先 ベラルシ共和国大使館
TEL 03-3448-1623

公式サイト <http://www.minsk-expo.com.by/>

●SIMEI International Ecological and Bottling Equipment Exhibition 2003

12月11〜13日

会場 Fiera di Milano (イタリア・ミラノ)
内容 ブドウの圧縮からワイン醸造・ボトルング・包装に関わる機械・装置メーカーが一同に集まる国際ワイン醸造設備展。

問い合わせ先 SIMEI
TEL +39-02-7222281

公式サイト <http://www.simei.it/>